



VORLESUNGEN  
ZUR EINFÜHRUNG IN DIE  
PSYCHOANALYSE.

VON  
SIGM. FREUD

DREI TEILE  
DIE FÜHRUNGSLEHRN / DER TRAUM  
ALLGEMEINE NEUROSELEHRE

TASCHENAUSGABE.

DRITTE AUFLAGE  
(8-10. TAUSEND)

INTERNATIONALER  
PSYCHOANALYTISCHER VERLAG  
LEIPZIG / WIEN / ZÜRICH



- Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse  
Taschenausgabe, 3. Auflage]. (1926) Sigmund Freud\_著
- (Neue Folge Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse  
(1926))

翻訳：(上、下\*)高橋義隆・下坂幸三都筑洋次郎 昭和 59 年 (1977)  
中公新書 : : 下\*に「続精神分析学入門」が含まれています。

現在では、上記のような面倒くさい本を読むよりは、以下のような動画が山ほど在りますし(Google の Psychoanalyse の項目)、多くの権威者の講義も YouTube なっていますのでそちらの方が手軽でしょう。



## 1-2) 精神分析学は科学か?

Freud 自身はこの学問の内容を **Wissenschaft**(自然科学)として記述しています。併し、英語の **Science** とは微妙にずれているのです。前号で書きました、オストワルドの「化学の学校」の時代と全く同じです。化学は典型的な **Science** の様相をしめし始

めていますが、生物学はまだ博物学の様相を示し、医学も全般的にはまだ Science 的な方式になりきっていません。精神分析学は Geistes Wissenschaft の世界です。どちらかといえば、**哲学**の世界です。あるいは、あえて言うならば**偽科学**の世界です。漢方の世界と一脈相通ずるものがあります。

+++++

精神分析の目録を Wikipaedia から引用しました。

- [1 概要](#)
- [2 歴史](#)
  - [2.1 シャルコーのヒステリー研究](#)
  - [2.2 フロイトによる精神分析の創始](#)
  - [2.3 心的外傷と無意識](#)
  - [2.4 科学としての出発点](#)
  - [2.5 精神医学界による排斥](#)
  - [2.6 精神医学との結びつき](#)
  - [2.7 精神分析学の衰退](#)
  - [2.8 21世紀ならびに近況](#)
- [3 治療技法](#)
  - [3.1 自由連想法](#)
  - [3.2 夢分析](#)
  - [3.3 除反応](#)
  - [3.4 解釈](#)
  - [3.5 ワークスルー](#)
- [4 治療過程の諸現象](#)
  - [4.1 転移](#)
  - [4.2 逆転移](#)
  - [4.3 抵抗](#)
  - [4.4 退行](#)
- [5 基本概念（フロイト定義）](#)
  - [5.1 理論図式](#)
  - [5.2 自我・エス・超自我](#)
  - [5.3 自我](#)
  - [5.4 自我理想](#)

- [5.5 生の本能・死の本能](#)
- [5.6 両価性](#)
- [5.7 精神力動](#)
- [5.8 心的決定論](#)
- [5.9 疾病利得](#)
- [5.10 治療者の分別](#)
- [5.11 事後性](#)
- [5.12 心的外傷](#)
  
- [6 発展概念（フロイト以後）](#)
  - [6.1 自我境界](#)
  - [6.2 自己愛](#)
  - [6.3 自己](#)
  - [6.4 自己同一性](#)
  - [6.5 パーソナリティ](#)
  
- [7 フロイト以後の精神分析の発展](#)
  - [7.1 フロイトの継承者](#)
  - [7.2 フロイトからの離反者](#)
  
- [8 精神分析への批判と議論](#)
  - [8.1 有効性への批判](#)
  - [8.2 理論や用語への批判](#)
  - [8.3 ポパーの科学哲学からの批判](#)
  - [8.4 脳科学からの批判](#)
  - [8.5 精神分析による人類学・民俗学研究への批判](#)
  - [8.6 記憶論争](#)
  - [8.7 人文学的一般教養としての精神分析](#)
  
- [9 現在の精神分析](#)
  - [9.1 科学的心理学と精神分析の統合](#)
  - [9.2 臨床での利用](#)

+++++

1－3) 新しく科学に向けて発展

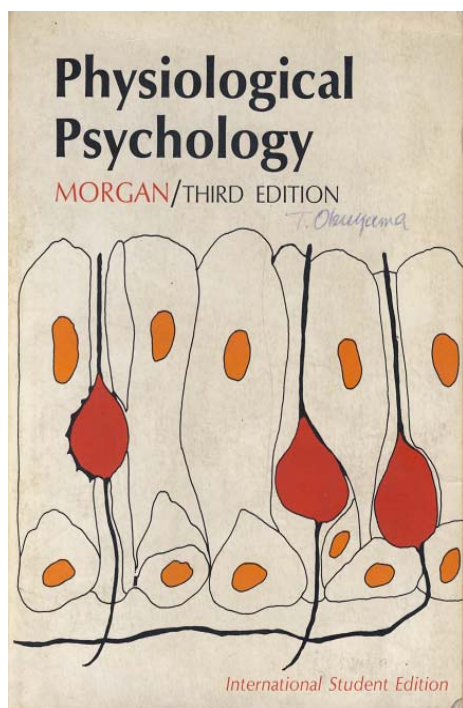
## \* 1 生理学的心理学

心理学も目視観察の心理学から客観記録の心理学に変わっています。

1950年頃より *Physiologica Psychology*、あるいは *Biological Psychology* という分野が発達し始めました。下図はその古典的な書籍の一例ですが、その後、今領域で、数多くの書籍が出版されています。Web から無料で **download** 出来るものも色々あります。

\* 2 脳科学 脳の解剖学的な知識とむすびについて Penfield はいろいろの動作の責任部位を明らかにしました。MRI など物理的な手法は非破壊で脳の作業の解析を可能としてきました。科学は変わっていきます。この電気パルスの筋道などマイクロ部位の活動が時系列的に記録できるようになると、思考・記憶など筋道がの解析出来るようになっていきます。過去に考えたり見たりしたことが再現できるようになるかもしれません。昔、動物の頭部をを移植する手術が行われたりしましたが、現在ならば、IPS細胞などの移植法などにより、もう少し精細な研究をが出来るようになっていきます。

こうなると、Freud の精神分析学は息を吹き返すことになるのかもしれませんが。



Preface to the Third Edition	vii
INTRODUCTION	1
1 THE PERIPHERAL RESPONSE MECHANISM	11
2 THE CENTRAL NERVOUS SYSTEM	36
3 NEURONAL PHYSIOLOGY	61
4 THE INTERNAL ENVIRONMENT	82
5 THE CHEMICAL SENSES	109
6 THE VISUAL SYSTEM	129
7 VISUAL PERCEPTION	164
8 HEARING	202
9 THE SOMATIC SENSES	240
10 MOTOR FUNCTIONS	272
11 EMOTION	306
12 SLEEP, AROUSAL, AND ACTIVITY	339
13 HUNGER AND THIRST	360
14 SEXUAL BEHAVIOR	395
15 INSTINCTIVE BEHAVIOR	427
16 CONDITIONING	464
17 DISCRIMINATIVE LEARNING	482
18 PROBLEM SOLVING	520
19 BRAIN DISORDERS	530
20 PSYCHOCHEMISTRY	546
General References	569
Bibliography and Author Index	573
Subject Index	611

“Physiological Psychology” international student edition

By C.T. Morgan (1965) 3rdEd. MacGrawHill

### \* 3 向精神薬

上記の目次の最終章 19 章に Psychochemistry があります。

1959年に私はアメリカのマサチューセッツ州の Worcester Foundation for Experimental Biology という研究所にいました。この研究所の Gregory Pincus 教授が経口避妊薬の開発者の一人です。私は Neuropharmacologically Oriented Research Group にいました。精神病の診断も問診ではなく、化学的な臨床検査法で出来ないかというのも一つのテーマでした。

当時、5-Hydroxy Tryptamin が精神病の患者に有効ではないかと提案され、その効力に興味が集まっており、また一方では結核の化学療法剤 (Isonicotinic acid hydrazide) を投与されている結核患者が異常に陽気になると言うことでした。この医薬を精神病の患者に投与したのです。さらにこの副作用で何人かの精神病の患者が亡くなったという噂も聞きました。

その時代から大分年数が経ちます。いろいろの薬剤が進歩してきましたが、脳のような Toporogical な臓器を治療するには、抗生物質のような気の長い薬剤投与法が必要なかもしれません。

\* \* \* \* \*

## 2) 第 61 回定例会(2015/02/27)の報告

2-1 出席 9名 メール送付数 約 800

2-2 次の資料を配布しました。

\* 前回のつづき 「Nomenclature on Electrophoresis」

By F.M.Everaerts(1989)

\* \*丸山さんからお酒の差し入れがありました。

楽しみながら会合を進めました。

\* \* \* \* \*

## 3) 第 62 回定例会のおしらせ。

\*\*\*\*\*

### バイオテクノロジー標準化支援協会 第 62 回 定例会

\*\*\*\*\*

日時 2015年02月26日(金) 14時00分—16時00分

参加費：無料

\* (定例会は会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言も出来ます。)  
友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。

場所 八雲クラブ (ニュー渋谷コーポラス 10 階-1001 号) (首都大学東京同窓会)

住所： 渋谷区宇田川町 12-3

電話番号： 03-3770-2214

(地図はグーグルで八雲クラブ案内図) 赤い矢印の場所です、。



2

## 話題

### 2015 年度活動計画の実施

#### 1) 計画 1 電気泳動分析用語集

前号で お示しました Everaerts 教授の 1989 年に計画された電気泳動の用語集の原稿を真鍋さんに送付し、検討をお願いいたしました。関係する ISO の委員会は次の 3 つです。

ISO TC276 Biotechnology term—definition

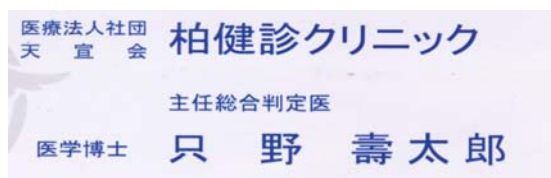
ISO Tc 212 Clinical Laboratory testing and . . .

ISO Tc34 Food Products/Sc16

#### 2) 計画 2; 医学と生物学復刊



2015年1月19日に 汐留健診クリニックで 只野先生にお会いしました。(荒尾さん、小林(英)さん、川崎さんと奥山)



私達の NPO が引きつぐための 3 つの必要条件をお聞きしました。この条件などについては、一応、**合意の念書**を作る予定です。その了承の上であれば引きつぐことに異存はないということで、一応の承認を得ました。

2) 計画3; LINK する団体 のリストを作りたいと思っています・

下図の報告書に1000 団体ばかりのリストが保存してありますが、現在にあわせて整理し直さなければなりません。

.\*\*\*

\*\*\*

\*\*

4) ホーム  
リストがあり  
の中から希  
さい。

**平成 9 年度  
バイオテクノロジー  
国際標準化推進事業  
成果報告書**

平成10年8月

財団法人 日本規格協会

ページにe-library の  
ます。会員の方はそ  
望のものをご指摘くだ

バイオテクノロジー標準化支援協会からジャーナルをお届けします。

- ① 配信停止・中止希望； 返信にしてその旨お知らせください。
- ② 配信先等、登録情報変更希望； 返信にしてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録を希望；返信にして、その旨記載してください。または入会希望書に必要事項を記載の上 FAX 送信ください。詳細確認希望の場合はその旨記載下さい。こちらよりご連絡差し上げます。
- ④ ウェブサイトに関するご意見；返信にして、ご意見を記載ください。